

12. 地域との連携

信濃川水系は幹川流路延長 367km、流域面積 11,900km²を誇り、広大な流域を持つ。今日では、流域の県・市町村との交流を密にし、河川を基軸とした地域づくりや河川をフィールドとした地域が連携した活動が行われている。信濃川水系における地域との連携の事例を以下に示す。

(1) 懇談会の開催

1) 千曲塾

千曲川と地域との関わりを様々な視点で解きほぐし、これからの千曲川のあり方を考えていくために設立された。長野県立歴史館館長を塾長とし、各回にテーマを設け、テーマ毎に関係した研究、活動をしている研究者、専門家を招き、講演会、意見交換会を開催している。



写真 12-1 第 7 回千曲塾開催の様様

2) 信濃川自由大学

信濃川の中流と下流を対象に、信濃川の自然や歴史など、その魅力を広く地域の方々に知ってもらうため、平成 17 度に開校した。

これまでの 17 回の講座では、毎回、テーマ毎に関係した研究、活動をしている研究者、専門家など、信濃川にゆかりのあるゲストを招き、対談形式のわかりやすい講座を開催している。



写真 12-2 第 1 回信濃川自由大学開催の様子

(2) 清掃活動

地域を含めた具体的な活動として水生生物による水質調査や信濃川クリーン作戦などイベント活動も行っており、毎回、多くの地域住民、地域の民間団体などが参加している。



写真 12-3 清掃活動の様子(明科町潮地区・犀川)

(3) 水辺の楽校の整備

河川の持つ様々な機能を最大限に生かし、河川等を身近な自然教育、体験学習の場として整備する「水辺の楽校プロジェクト」事業を推進している。



写真 12-4 水辺の楽校(つまりっ子広場)を利用したふるさと体験学校の模様

(4) 公募による樹木伐開

千曲川・犀川では、計画的な樹木伐開とともに、公募によるハリエンジュなどの樹木伐開を実施している。



坂城地区抽選状況

写真 12-5 樹木伐開の公募

(5) その他

信濃川の歴史や文化を再認識し、信濃川を愛し、慈しむ心を多くの市民に持ってもらうこと、かつ市民からその趣旨を理解、賛同してもらうことを目的に、新潟市域における信濃川水辺空間での優れた建築物、市民による個性豊かな活動等を広く募集し、信濃川とつながるまちづくりに貢献する優れた事例を表彰している。



写真 12-6 新潟総合テレビ本社ビル
(水辺の施設部門大賞)



写真 12-7 萬代橋サンセットカフェ
(水辺の活動部門大賞)